



高知大学植物標本庫には、日本中から採取してきたコケの標本がなんと約8万点も保管されているんです。標本整理の作業中でも「新種や日本初となるコケを発見したい!」と標本庫での新種のコケ探しも日課の一つになっています。



小さい頃から大の植物好きで、授業の中で顕微鏡のコケを覗いた時、思わず「カワイイ!」と叫んでしまいました(笑)。今始まったばかりのコケワールドの研究に、すごく期待しています。



片桐研究室で詳しく「コケ」を学んだ結果、コケには地球温暖化の抑制効果ほか地球環境を整える働きまであるなんて(驚!)。あらゆる可能性を秘めたコケのことを、研究者気質の片桐先生から教えていただくのが楽しみです。



当初は動物の分野に興味があったのですが、大学3年で受けた片桐先生の授業で、「未だ殆ど解明されていないコケが、やがて人類の進歩に大きく貢献していくであろう」と聞いてからは、心は逸るばかりでした。このワクワクは今もずっと続いています!



「コケ」なら任せて!
片桐研究室
について

「日本国内ではコケの研究者が殆どいない!」ってことを知ってからは、その面白さで頭の中はコケ一色(笑)。実は植物が専門の大学教員でも身近なコケの名前さえ知らないことがほとんど。大学院からコケを学び始めて、気がつけばコケの世界に没頭してしまいました!

高知から始めるコケ研究

■ 現生のコケ植物の多様性を解き明かす!

片桐研究室では、コケ植物の分類に関する研究を行っています。世界に約2万種とされるコケ植物ですが、日本にはいったい何種のコケが生育しているのでしょうか。コケの絶滅危惧種や外来種の分布、生態はどのようなになっているのでしょうか。コケ植物の分類学的研究は、まだまだ発展途上の分野であり、温暖湿潤で標高差もある日本には未発見の新種や日本新産種がまだ多数あると考えられています。自分が研究することで発見されるコケがあるというのも、コケ研究ならではの醍醐味です。

■ 絶滅したコケから進化の道筋を解明する!

当研究室では、コケ植物化石の研究にも取り組んでいます。地球最初の陸上植物とされるコケの5億年にわたる進化の道筋を明らかにするには、直接的な証拠である化石の研究が必要不可欠です。これまでに岩手県久慈市の白亜紀の琥珀の中から2種、バルト海沿岸の琥珀から2種の新種を発見しています。恐竜が生きていた時代にはどんなコケが生育していたのでしょうか。私たちの想像を超えるユニークな形のコケに出会えるのが研究の最大の喜びです。

■ コケ博士への出発点、高知大学はコケ研究の聖地!

70年以上にわたり一貫してコケ植物の研究を行ってきた当研究室は、日本における植物分類学の一端を担う貴重な研究・教育拠点として活動を続けています。高知大学植物標本庫には、現在約8万点のコケ植物標本が所蔵されており、国立大学としては第2位の規模を誇ります。自然豊かな高知県はコケ植物の種類も豊富で、コケの研究には絶好のフィールドです。コケ博士を目指して一緒に研究しませんか。



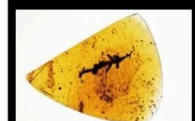
イボイボムクムコケ
南アルプスで発見した新種
(山梨県)。



シナノセンボンゴケ
絶滅危惧種。四国では剣山
にのみ生育が知られる希少種
(徳島県)。



横倉山
四国で初めて「日本の貴重な
コケの森」に選定された
(高知県)。



クジフタマタゴケ
恐竜時代の琥珀から発見
した新種(岩手県久慈市)。

生物
科学
科

「植物分類学研究室」 片桐研究室



片桐 知之
Tomoyuki Katagiri

【Profile】

- 出身地 / 福岡県
- 学科名 / 生物科学科
- 研究室のメンバー及び構成
学部生3名
- 専門領域
植物分類学、コケ植物学

【略歴】

2010年 / 広島大学 修士
(理学)

2013年 / 広島大学 博士
(理学)

【現在】

高知大学理工学部
生物科学科 講師



コケの宝庫、屋久島での調査も!